



洋上アルプス

No.263 平成29年2月5日

発行
林野庁屋久島森林生態系保全センター



バックナンバーや屋久島国有林における入林許可申請等様式のダウンロードはこちらにあります
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL0997-42-0331 FAX0997-42-0333



第3回世界遺産地域連絡幹事会を実施 (1月11日)

鹿児島森林管理署会議室において開催された当幹事会では、2月1日～2日に開催が予定されている第2回屋久島世界遺産地域科学委員会・特定鳥獣保護管理検討委員会及びヤクシカWG合同会議の開催までのスケジュールと、審議される各議題の資料説明及び会議の進め方について協議されました。

また、環境省、林野庁、鹿児島県及び屋久島町の4者共同で策定される第2種特定鳥獣管理計画について、平成29年4月1日～平成34年3月31日までの計画に関し、現行計画に対する変更案の討議が行われました。



世界遺産地域連絡会幹事会

福岡県久山町屋久島町視察 (1月24日)

福岡県久山町久原財産区管理会役員10名が屋久島視察研修で当センターを訪問されました。当センターでは、「屋久島の貴重な森林生態系の適切な保全管理等の取り組みについて」と題し講話を行いました。

世界自然遺産に登録されている屋久島の多様な自然環境や動植物の特徴や各種モニタリング調査、野生鳥獣被害対策(シカ対策)、巡視活動、外来種対策など当センターが行っている森林生態系の適切な保全・管理の取り組みについて説明しました。久山町の皆さんからは、久山町でも深刻な被害が発生しているシカ対策について多くの質問がありました。



研修の様子

シャープシューティングの体制による現地検討会を開催 (12月23・24日)

屋久島では、ヤクシカの増加に伴い、森林植生の採食による更新阻害、希少種の減少、景観変化、土壌流亡等が生じ、生態系への影響が懸念されています。



現地検討会

このため、個体数管理のための計画捕獲の一環としてシャープシューティングの取り組みが進められています。

今回、シャープシューティングで求められる意識、技術水準、体制や運営を先進地事例から確認し、実施に向けた課題と解決方策について関係機関で確認することを目的に現地検討会などが開催されました。

*シャープシューティング：餌を設置してシカに餌場として認識させた後、一斉に捕獲すること。目的は、一斉捕獲により、シカの警戒心が強まって捕獲しにくくなったシカの拡大防止と効率のよい捕獲のため。

松枯れ対策連絡協議会「屋久島支部会」を開催 (12月8日)

当協議会は、林野庁・環境省・県・町・森林総研・樹木医・ヤクタネゴヨウ調査隊で構成され、屋久島及び種子島の松食い虫等による被害木の除去や防除に役立てようと平成17年度から開催されています。

会議では、昨年と比べ被害が拡大していること、特に尾之間千尋の滝周辺に最も被害が多く、被害木(クロマツ)の除去等の対策について報告がありました。今後も引き続き監視を続けると共に、一般の皆様へも民有林や国有林で被害を受けたマツを見かけた場合は、情報の提供を呼びかけています。



松枯れ対策協議会

屋久島の外来植物に興味津々

昨年の10月22日、屋久島町立安房中学校1年生26人を対象に森林教室が開催されました。

この森林教室は、屋久島ライオンズクラブが進めている青少年育成事業及び環境保護活動事業の一環として行われ、当センター職員を講師に屋久島に生息するアブラギリなど外来植物の影響や三角定規を用いた樹木の高さの測定方法などを学習しました。



植樹できたよ



安房中での学習

その後、会場を屋久杉自然館の植樹現場に移し、小雨の中、参加者全員が手をどろんこにしながら、リンゴツバキの植樹活動を行いました。

外来植物の繁殖分布調査を開始

当センターと屋久島森林管理署は、今年度から4年間、屋久島、種子島の国有林内に繁殖する外来植物(木本類)の分布調査を実施します。



アブラギリの花

外来植物の繁茂は、特に世界自然遺産地域を抱える屋久島にとって、生物多様性の劣化や在来種の成長阻害・減少・消滅、景観構造の改変などの問題が危惧されています。

これらの状況を背景に今回の調査は、適正な森林育成環境の維持に向けて、外来植物(アブラギリなど木本類6種)の侵入繁殖箇所の把握調査と国有林内の外来植物侵入分布図作成を行い、外来種対策の参考資料とします。



平成26年度 アブラギリ分布状況

ヤクスギ円盤はいまどこに (第2回)

— 円盤はどこにどんなものがあったのか —

吉田 茂二郎 (九州大学大学院農学研究院 教授)

私が集めようと思ったヤクスギ円盤は、いつ頃、屋久島のどこで伐採されたかがわかっているもの、つまり詳細な情報を持ったものです。なぜなら展示でも、ましてや科学的な分析をする場合にも、円盤が屋久島のどの場所で育ったかといった情報が欠かせないからです。

さて、10年前に始めたヤクスギの円盤探しは、屋久島内は自然館が担当だったので、ご苦労も相当あったと思いますが、他の地域より順調に進んだと思っています。県内もさすがに地元情報があり、これも順調だったと思います。残されたのは、吉田が担当したそれ以外の地域でした。私が所属する九州大学農学部の実験林(演習林という)の展示室には、写真のようにヤクスギを含む多数の円盤があったので、各大学の演習林にはどこにも円盤が沢山あると思い込んで、出張のたびに時間を作っては各大学の演習林に行きましたが、ほとんどありませんでした。それでも色々な出張の機会に時間を見つけては円盤を求めて情報収集を行い、一枚ずつ見つけていきました。平成25年からは、吉田が九州大学総合研究博物館の館長になったことから、全国の大学博物館を含む色々な博物館の円盤を新しいターゲットに搜索を続けました。



写真:九州大学福岡演習林の展示室にある国内外の多数の円盤

そのような中、屋久島内の円盤情報を自然館からいただいた時だったと思いますが、集まってきた円盤の写真を見ていると、同じような写真があることに気付きました。今はデジタル写真ですので、裏表を逆にしたり、回転や拡大・縮小することで、写真を簡単に比較できるような形に加工できます。その手法で似た写真を加工すると、同じ円盤が複数組あることがわかりました。考えてみれば良いヤクスギの丸太が出てきたら、その一部分あるいは一本全部を輪切りにして円盤を何枚も作り、関係機関に配ったことは容易に想像できます。それに気付いてからは、同じ木から切り出された円盤が出てくることも楽しみでした。最近では、新しい円盤が出てきても、すぐどの円盤に似ているかわかるようになり、自称、初代ヤクスギ円盤マイスターに近づいていると思っています。

収集を始めてから10年になるので、区切りを付ける意味でこれまでの情報を私が属する日本森林学会の学会誌に投稿することで公開しました。昨年行われた屋久島学ソサエティ第3回大会でもポスター発表をしました。2016年10月現在でヤクスギ円盤として展示されているものは、全国といっても北は茨城県つくば市にある森林総合研究所までですが、とにかく88枚見つかри、本当にヤクスギといえる1,000年以上のものを選ぶと54枚になりました。そして、この54枚の円盤は23本の同じ木(同一木)から切り出されており、屋久島には19枚(10個体)、鹿児島県内には7枚(6個体)、九州管内に8枚(6個体)そしてそれ以外の地域に20枚(9個体)あることがわかりました。(つづく)

屋久島の植物



ヤクシマダケ (イネ科)

屋久島に固有の笹竹の仲間
で、通称ヤクザサ。高地で大群
落を形成している。モッチョム
岳や国割岳の山頂部にも生育。
昭和42年(1967年)頃、
一斉に開花し実を落として、一
斉に枯れた。翌年から種子が発
芽、3〜4年かけて元の緑に
還った。

屋久島生態系モニタリング



屋久島北部等の植生垂直分布調査（平成27年度）

●標高0㍍プロット（クロマツーリュウキュウチク群集）

宮之浦川河口右岸側に位置する防風保安林。過去に胸高直径50㍍以上のクロマツ大径木が茂っていたが、マツ材線虫病により全て枯死。現在では胸高直径20～30㍍程度のクロマツが、イスノキ、タブノキ等の広葉樹と混交して生育。地形はほとんど平坦。

【結果概要】

高木層として常緑広葉樹のギョボクやイスノキ、針葉樹のクロマツなど、低木層にはリュウキュウチクが主に生育する。ヤクシカの生息は見られず低木層・草本層の生育は良好である。

【草本層の変化とヤクシカ生息状況】

テイカカズラやリュウキュウチク、ボチョウジなどが主に生育する。なお、リュウキュウチクやボチョウジはヤクシカの嗜好植物であり、ヤクシカが侵入した場合、植被率が下がるおそれがある。

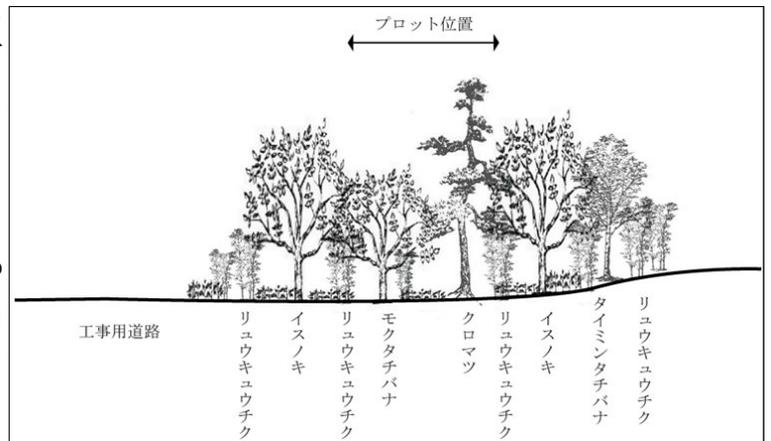
生息密度：0頭/km²、ヤクシカの確認情報あり。

【過年度との比較】

今回新たに設定した地点であるため、H22調査との比較はできないが、構成種の大きな違いはない。過年度調査と同様、ヤクシカの生息は見られず低木層・草本層の生育は良好である。



プロット付近の概況



群落縦断面図



巨樹・著名木 屋久杉

大龍杉

大龍杉は、上側の3分の2は既に枯れており、かつて3本に分かれて立ち上がっていた形跡があります。下側だけが元気で7～8㍍の高さで横に大きく張り出し、下を通る花山歩道を圧しています。

大龍杉にはヤマグルマ、サクラツツジ、ヒカゲツツジ、サカキ等が着生しています。

- 樹高：12.8㍍
- 胸高周囲：7.1㍍
- 樹齢：不明
- 標高：1,220㍍（原生自然環境保全地域）
- 場所：花山歩道沿い（花山広場前）

参考文献：屋久杉巨樹・著名木 改訂版（H11.7）

